



浅見真州(観世流鍊仙会)

能

松風

【あまのこ】

野村万蔵(和泉流)

狂言

長光

【ながみつ】

第一部

12時30分開場
13時00分開演



「松風」鶴澤久
撮影：前島吉裕

第115回

川崎市定期能

平成30年12月16日(日)

会場：川崎能楽堂

入場料：各部 4,000円(全席指定)

U25 3,000円

※脇正面、中正面エリアのみ選択可。25歳以下の方。
購入時に生年月日のわかる身分証明書をお持ちください。

能

藤戸

久(観世流鍊仙会)

仕舞

玉之段

【たまのだん】

鶴澤 光(観世流鍊仙会)

第二部

15時00分開場
15時30分開演



「藤戸」鶴澤久
撮影：吉越研

チケット発売日

平成30年11月7日(水) 午前9時より川崎能楽堂窓口にて発売(先着順)

*残券があれば、同日正午より電話・川崎市文化財団ホームページでも販売いたします。

チケット取扱・
お問合わせ

川崎能楽堂 TEL.044-222-7995 川崎市川崎区日進町1-37 窓口・電話 9:00~17:00

*但し初日のみ電話受付は正午から。窓口完売の際は電話での受付はいたしません。

川崎市文化財団ホームページ <http://www.kbz.or.jp/event/noh/20181216/>

*ホームページより申し込みの場合、予約確定は申し込んだ日の翌日となります。



主催 公益財団法人 川崎市文化財団 〒212-8554 川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー5階 TEL.044-272-7366 FAX.044-544-9647

*開演後にはご入場いただけない場合がございます。また、出演者等変更になる場合がございますので予めご了承ください。なお、ご購入いただいたチケットのキャンセルや変更はできません。

松風と藤戸を面白く見るための事前講座

◆日時：平成30年12月1日(土)14:00~16:00

◆講師：鶴澤 久(観世流鍊仙会・川崎市市民文化大使)

◆料金：無料

◆会場：ミューザ川崎・企画展示室(川崎駅西口から徒歩3分)

三浦 裕子(武蔵野大学教授・同大学能楽資料研究センター長)

◆定員：50名(先着順)

*第115回川崎市定期能チケットご購入者が対象となります。 *受講をご希望の方にはチケットご購入の際に整理券をお渡しいたします。

【第一部】午後1時開演（午後12時30分開場）

狂言 長光

ツレ村雨 鶴澤 光
シテ松風 浅見 真州

シテすっぱ 野村 万蔵

アド田舎者 野村拳之介
小アド目代 河野 佑紀

能 松風

ワキ旅僧 江崎欽次朗
後見 清水 寛二
観世鏡之丞

大鼓 佃 良太郎
小鼓 幸 正昭
笛 八反田智子

地謡 安藤 貴康
長山 桂三
浅見 慈一
馬野 正基
西村 高夫
柴田 稔

狂言 長光【ながみつ】

男（アド）が訴訟の用件も無事に済み、故郷への土産を買いに市場へ出かけます。賑やかな市を見物して歩いていると、馴れ馴れしく髭の男（シテ）が近づいてきます。そればかりか男が手に持った太刀を盗もうとします。怒った男が人を呼ぶと、髭の男も同じく人を呼びます。駆けつけた目代（小アド）に男が事情を話せば、髭の男も盗み聞きして自分の物だと強く言い張ります。しかし太刀についての様々な質問に答えるうちに……。

能 松風【まつかぜ】

諸国を旅する僧（ワキ）が摂津国（兵庫県）須磨の浦を訪れます。僧は、磯辺に由緒ありそうな松があるのに気づき、土地の者にその謂れを尋ねたところ、その松は松風と村雨という名をもつふたりの海女の姉妹の旧跡で、彼女らの墓標であると教えられます。僧は、経を上げてその松を弔った後、一軒の塩屋に宿を取ろうと主を待ちます。そこに、月下の汐汲みを終えた若く美しい女がふたり（シテ・ツレ）、汐汲車を引いて帰ってきました。

僧はふたりに一夜の宿を乞い、中に入ってから、在原行平の詠んだ和歌を引き、さらに松風、村雨の旧跡の松を弔ったと語りました。すると女たちは急に泣き出すので僧がそのわけを聞くと、ふたりは行平から寵愛を受けた松風、村雨の亡霊だと明かし、行平の思い出と彼の死で終わった恋を語るのです。

姉の松風は、行平の形見の狩衣と烏帽子を身に着けて思い出に浸りますが、やがて半狂乱となり、浜辺の松を行平だと思ひ込んで、狂乱の舞を舞います。やがて夜が明けるころ、松風は妄執に悩む身の供養を僧に頼み、ふたりの海女は夢の中へと姿を消します。あとには松吹く風と波の音が残るばかりでした。

【第二部】午後3時30分開演（午後3時開場）

仕舞 玉之段

前シテ漁師の老母 鶴澤 久
後シテ彌師の亡霊

ワキツレ従者 矢野 昌平
小鼓 幸 正昭
笛 八反田智子

地謡 長山 桂三
馬野 正基
安藤 貴康

能 藤戸

ワキツレ従者 村瀬 慧
アイ盛綱の下人 野村万之丞
後見 浅見 慈一
清水 寛二

大鼓 佃 良勝
小鼓 幸 正昭
笛 八反田智子

地謡 観世 淳夫
長山 桂三
馬野 正基
西村 高夫

仕舞 玉之段【たまの段】

藤原房前の出世譚や、讃岐国（香川県）支度寺の縁起を軸に展開されるドラマティックな能「海土」の前半のクライマックスが「玉之段」と呼ばれる、写実的な演技が多い部分です。

藤原不比等の妹が唐（中国）の后となるにあたり唐から贈られた宝珠を支度浦で龍宮に奪われてしまいます。落胆した不比等は、身をやつして彼地に赴き、一人の海女（シテ）と契りを交わします。海女は、不比等との間に生まれた我が子（藤原房前）を世継ぎにする事を約束の上、宝珠を奪い返す為、自らの命と引き換えに深海に飛び込み、宝珠を守る悪龍たちとの凄絶な闘いの末、息絶えたのでした。

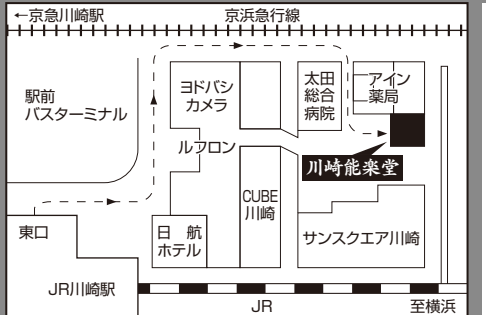
能 藤戸【ふじと】

源平合戦の時、藤戸の合戦で戦果を挙げ、先陣の功を立てた佐々木盛綱（ワキ）は、その恩賞によりその辺りの土地を賜り、新領主として凱旋して来ます。そして、なにごとでも訴訟ある者は申し出よと領民に触れを出します。そこへ、中年の女（前シテ）が出て来て、盛綱に向かって、わが子を海に沈められた恨みを述べ、そのときの有様を語って欲しいと嘆き訴えます。盛綱は一度は否定しますが、隠しきれず、その時の様子を語ります。

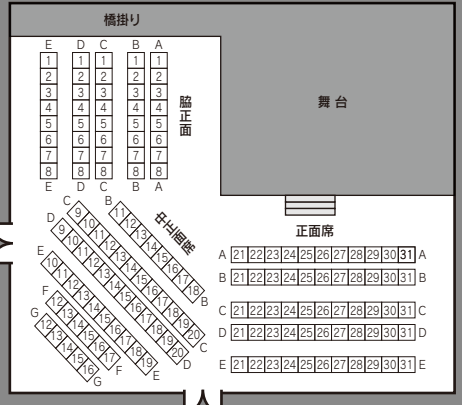
盛綱は藤戸の合戦に手柄を立てようと、地元に住む若い漁師から、馬で渡れる浅瀬を聞き出しますが、このことを他の者に知られたくなかったので他言を恐れて漁師を殺したときの様子を語り、その男を沈めた場所を教えます。

女は悲しみを新たにし、親子の情を述べ、自分も殺してほしいと詰め寄ります。盛綱は前非を悔いて弔いを約束し、老婆を家に帰らせませす。盛綱たちが弔いをしていると、盛綱に殺害された漁師の亡霊（後シテ）が現れ、理不尽に殺された恨みを述べますが、やがて弔いの功德で成仏します。

川崎能楽堂案内図



JR川崎駅東口より徒歩5分
■アクセス（JR川崎駅まで）品川駅より約9分 横浜駅より約8分
※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。
川崎能楽堂
〒210-0024 川崎市川崎区日進町1-37
TEL.044-222-7995 FAX.044-222-1995



※U25券は脇正面席・中正面席のみ選択可。
※本公演は目付、シテ、ワキ柱とも150cmのものを使用しております。

次回公演のお知らせ

平成31年1月19日(土)
野村万蔵による芸能サロン
「狂言を楽しもう」

会場：川崎能楽堂
狂言 雷能村昌人、狂言 入間川 野村万蔵
チケット発売：12月12日(水)

第一・二六回川崎市定期能「観世流」

平成31年3月16日(土)
会場：川崎能楽堂
第一部：能 楊貴妃 観世恭秀
第二部：能 胡蝶 田邊哲久
チケット発売：2月6日(水) 予定